

Doc. No.: NR071130

2007年11月30日

## プリント配線板製造の中間工程検査専用のカラー外観検査装置を発売 ～カラー最終外観検査技術を応用し、歩留まりの向上に貢献～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)の電子機器カンパニー(社長：藤澤 恭平)はこのほど、ソルダーレジスト(はんだ付着防止皮膜)の形成やシルク印刷など、プリント配線板製造の中間工程におけるカラー外観検査を可能にした、ワークサイズ配線板カラー外観検査装置「WI-8000」を開発。2008年1月から販売を開始します。

近年、デジタル家電や車載機器、ゲーム機メーカーなどに部品を供給する電子部品業界の安定した成長に伴い、それらの機器に使用される各種配線板の需要が拡大し、プリント配線板業界では生産量の拡大に加えて、生産効率の向上を追求する取り組みが急務となっています。そのため各メーカーでは、プリント配線板の最終工程だけでなく、中間工程での欠陥検査によって歩留まりの向上を実現する、新たな生産フローの構築が模索されています。

今回販売を開始する「WI-8000」は、業界のこのようなニーズに応えるもので、長年培った高速画像処理技術と、プリント配線板最終外観検査装置「FP-8000」で確立したカラー外観検査技術を融合し、ソルダーレジスト形成、シルク印刷、各種メッキなど、プリント配線板製造におけるさまざまな中間工程に応用展開。光学的な自動検査により、ソルダーレジストのはがれをはじめとする各種の欠陥を検出し、それらのデータの集計・分析結果を即時に欠陥発生原因の解消に向けてフィードバックできるなど、歩留まりの向上に貢献します。また、最大660mm×600mmの検査領域をカバーするとともに、高性能画像処理エンジンの搭載により、600mm×500mmの配線板を約25秒\*で高速処理できるため、生産性を損ねることなく既存の製造ラインに組み込むことができます。そのほか、欠陥をモニターで確認できる照合用オプションユニットをラインアップ。顧客の生産形態に合わせて、あらゆる工程に活用できる装置となっています。

当社は、今回の「WI-8000」の発売により、プリント配線板の品質や歩留まりの向上に対する需要に応えるとともに、新たな検査装置市場を開拓します。また、高精細の配線板に対応するカラー検査装置の開発やグローバルな販売展開も視野に入れ、プリント配線板業界におけるさらなるシェアの拡大を図っていきます。

※ 検査時間は配線板のデザインによって異なります。

\* この装置は、12月5日(水)から7日(金)まで中国・広東省のShenzhen Convention & Exhibition Center(中国深圳会展中心)で開催される「HKPCA & IPC Show 2007」において、実機を動態展示します。

### <販売開始予定>

2008年1月

### <国内希望販売価格(消費税別)>

4,000万円(オプションは含みません)

### <年間販売台数(初年度)>

10台



WI-8000

☆ この画像の印刷用データ(解像度300dpi)は、下記URLよりダウンロードできます。  
([www.screen.co.jp/press/nr-photo/](http://www.screen.co.jp/press/nr-photo/))

●本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 本社広報室：Tel 075-414-7131 Fax 075-431-6500 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目